産経新聞　（第3種郵便物認可）

住民パワー　寺内町に活気

町家への出店審査▼景観と空き家解消両立

富田林

情緒豊かな町家の風景で観光客に人気がある富田林市の「富田林寺内町（じないまち）」で、地域住民の橋渡しによって、町家を利用したカフェやショップが次々とできている。出店の際に地域住民が「お墨付き」を与える独特のシステムで、景観保護と空き家の解消を両立させているのが特徴だ。秋の観光シーズンまっさかり。町関係者は「風情とにぎわいのある町に足を運んで」とPRしている。（岡田英也）

週末に多くの来店者でにぎわうショップ

取り組むのは、町家活用の受け皿となる「富田林町家利活用促進機構」（LLPまちかつ、佐藤康平代表）。商店主や林業など様々な職業に就く地域住民ら8人がメンバーで、空き家への入居希望の相談受け付けや所有者との橋渡しを行い、空き家を解消している。

同町には、現在約500軒の建物があり、大半は住宅として利用されているが、地元協議会が行った2008年の調査時点で、約60軒の空き家があった。最近の「町家ブーム」を受け、市外の起業家らから「店を開きたい」などと声が寄せられていたが、所有者側は「知らない人に家を貸すのは不安」と、話が進まないケースが目立ったという。

そのため、メンバーらは「このまま町家が取り壊されると町のためにならない」と09年9月、「LLPまちかつ」を設立。所有者から聞取りや内装などの情報を集めてリスト化し、入居希望があれば面談を行い、利用目的や条件を聞き取って所有者に紹介してきた。希望があっても、町の風情にそぐわない飲食チェーン店は断ってきたという。

地域住民の橋渡しでオープンする店が増えてきた寺内町（富田林市で）

カフェなど17軒　にぎわい生む

設立から3年間で交渉が成立したのは17軒。瓦ぶきで板塀や白壁が特徴の落ち着いたカフェや手工芸品店、アトリエ、本屋などがオープンした。

佐藤代表は「面談ではこの町とともに歩んでいく意思があるかを重視している。地域住民が間に入ることで、寺内町にプラスになるか判断ができることが大きい」と意義を強調する。

LLPまちかつの紹介で昨年10月にオープンした喫茶と雑貨販売「たびもぐらカフェ」の店主、菅原由紀代さん(33)(河南町)は「寺内町には、ゆったりした時間の流れを感じられる魅力がある。知らぬ人同士の交流が生まれるような店に育てたい」と話す。

友人と町を散策していた八尾市の主婦竹内夕里さん(38)は「美しい町並みを眺めながら、ショップを巡るのは楽しい。個性的な店がどんどん増えれば」と期待していた。

LLPまちかつは「今後は入居者に開店までに苦労した点や改善点のアンケートを行い、町のためだけでなく、町を訪れる人にも喜んでもらえるショップを誘致できれば」としている。

詳細や問い合わせはLLPまちかつのホームページ（http://www.machikatsu.jp/）から。

富田林寺内町　戦国時代に浄土真宗の寺院を中心に堀や土塁で囲んだ東西400㍍、南北350㍍の範囲で自治が行われた町。府内で唯一、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、江戸中期～昭和初期の古い町家は約180軒残っている。統計記録はないが、春と秋のシーズンには、女性を中心に多くの観光客が訪れる。

偽装請負解消のため有期雇用

勤務。これが偽装請負にあ
るとして、同社は5月
導は期間の定めを置くこと
を禁止したものではなく、
京の松野頼久国会議員団代
表としては初めてのケース
している。